

現役学生による就職報告

1. 常に先のことを考え最後まであきらめない

(青屋 拓郎)

私が就職活動を意識し始めたのは3年の4月でした。3年の後期から就職活動が本格的に始まるということは聞いていましたが、漠然としすぎていてどのように活動していけばいいのかわからない状態だった私は先輩に相談しました。そこで先輩から就職活動の一通りの流れを教えてもらいました。また、この時点である程度の自己分析が終わっていた私は「IT企業に就職したいと考えているなら、情報科学部の『インターンシップ』という授業を履修して仕事内容を知っていた方がいい」という話を聞いていたので、3年の夏季休暇に体験しました。インターンシップは実際の企業で仕事風景を見学でき、業務内容と近い仕事をさせてもらうことで社員さんと接することができるので貴重な経験ができました。この経験を通じて改めて自己分析を行い、自分の長所短所や自分が将来どうありたいかを再分析しました。そして、10月には就職活動支援サイトに登録し、業界研究に取り組みました。また、これと並行して、履歴書の「自己PR」や「学生時代に力を注いだこと」について作成しました。

私の就職活動が本格的に始まったのは11月に開催された合同企業説明会でした。初めての合同企業説明会は友人と一緒に参加し、互いに説明を聞いた企業セミナーと一緒に受けていました。合同企業説明会に参加して思ったことは、時間が許す限り出来るだけ多くの企業のセミナーに参加すること、友人と一緒に参加しても決して友人に流されてはいけないということです。

多くの単独企業説明会が開催される1、2月はマイナビやリクナビ等の就職活動支援サイトを活用し、企業研究を行います。そして、志望する企業の単独

企業説明会の日程が決まると予約し説明会に参加します。就職活動支援サイト以外では大学内での説明会もあります。これは企業側が九産大の学生を採用したいと考えて来てくれている為、キャリア支援センターに足を運び、情報を逃さないように心がけました。

説明会ではパンフレットを読むだけでは分からない話を聞くことが出来るので気になった点はささずメモをとり、企業研究の参考にしました。また、合同企業説明会でも言える話ですが、質問を設ける場では気になることは恥ずかしいなんて考えずに積極的に質問していくべきだと思います。説明会の後に筆記試験が行われる企業もある為、SPIや適性検査は常に対応できるよう日頃から勉強しておくことが大切です。そして、選考が進むにつれて大半の選考が面接試験になってきます。この時、面接練習をしていたのとしていないのとは大きな差があります。そこでキャリア支援センターを活用して面接練習をし、緊張していても自分が企業の方に伝えたいことを伝えられるように練習しました。

これらの事から私は自分の欠点を正確に把握し改善し続けること、常に先のことを考えて行動すること、そして何より最後まであきらめないという根気強さが内定への近道だと思います。私はこのとおりに努力した結果、早いうちに無事複数の会社から内定をいただいております。

2. 面接は貴重な体験と思い込まないと損する

(仲前 晋太郎)

2008年に起こったリーマンショック以降、2009年、2010年と内定率は低下している。このような状況から就職活動を早くから始める学生が多く、例年以上に就職活動は厳しくなっていました。

私が、就職活動を始めたのは、3月で他の学生と比べると非常に遅く、大手企業の選考は終わっており、会社の説明会の予約が取れない状況になっていました。それでも、合同説明会に行ったり、リクナビ、マイナビで新たにエントリーを開始した企業を調べたりしていました。説明会の予約を取れなくて、諦めるのではなく、どうしたら予約を取れるかを考え、学内のセミナーやキャリア支援センターに来ている求人票を頂いたり、リクナビ、マイナビだけでなく、日経ナビを使い、企業を調べたりしました。また、説明会に行けない時間を有効に使うために履歴書の見直しを重点的にやっていました。それと並行して自己分析を行い、自分がどういう仕事に就きたいのか、どういう業界に興味があるのかを明確にしました。これはとても大切な事で、内定をまだ貰っていない学生の中には、どういう仕事がしたいか明確になっていない学生が多く、そのため就職活動も効率の悪いやり方でやっているように思えました。

単独説明会の予約が取れた時、説明会に臨むにあたって、相手の目を見て話す、聞くこと、あいさつ、笑顔、そして、質問する内容を考える事、この4つの事を意識して臨みました。これは、面接の時も同じです。特に、質問する内容を考える事は大切に、説明会の時も面接の時も最後に企業の方が「最後に質問はない？」と聞かれます。この時に言えるか言えないかで大きく企業の方の印象は変わってくると感じました。

そして、就職活動で最も苦勞する面接では、面接を受ける前に2つの事をしました。面接を受ける企業を調べ直す事と自分の履歴書を見直す事です。企業を調べ直す事では、他の企業と比べてどういう所が強みなのか、その企業独自の商品や事業内容、経営理念、社長の言葉など調べ直し、経営理念や社長の言葉に関しては覚えるまで読み返しました。そして、自分の履歴書を見直す事では、志望動機や自己PRの文章から自問自答を繰り返しました。どんな質問をされても、答えられると自信が持てるまで繰り返しました。面接当日は、リラックスして臨もうと思っても時間が近づくにつれ、緊張してきます。この時、私は、「面接を楽しもう」と考えて臨みました。この考えは、ある本を読んだ時に考えた事なのですが、面接では人事の方や役員、社長とその企業のトップの方々がされます。そのような方々とお話

ができるということは、非常に貴重であり、そのような機会を緊張でしゃべれないということはもったいないと書かれていました。私は、その本を読んで面接は嫌なものではなく、めったに話せない方々とお話ができる貴重な体験なのだと考え、それならば、面接を楽しまないと損すると思いました。この考えを自分に言い聞かせ、面接に臨むととてもリラックスして、面接を受けることができました。このような流れから無事内定を頂く事ができました。

最後に、これから就職活動をする学生にメッセージを言わせて頂きます。新卒者であるという事を大事にしてもらいたいと思います。今、中途採用でも就職が難しい状況の中、実績が無くても、学生時代に頑張った事、学んだ事で就職できるこの時期を死に物狂いで頑張してほしいと思います。

著者紹介：

青屋 拓郎

平成19年4月九州産業大学情報科学部社会情報システム学科入学。下川研究室所属。平成23年3月卒業見込み。

仲前 晋太郎

平成17年4月九州産業大学情報科学部入学。平成21年4月大学院情報科学研究科進学。成研究室所属。平成23年3月修了見込み。